

空知総合振興局海外悪性伝染病警戒本部幹事会 次第

〔 日 時 令和4年11月7日(月) ~~13:30~~→15:00 〕
〔 場 所 ~~空知総合振興局4階講堂~~ 書面会議 〕

1 開 会

2 あいさつ

3 内 容

(1) 北海道における高病原性鳥インフルエンザの発生について

(2) 海外悪性伝染病への対応について

①本庁

②空知総合振興局

(3) 野鳥の高病原性鳥インフルエンザの対策について

(4) 家きんの高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、アフリカ豚熱及び口蹄疫
の発生状況について

(5) 連絡網 (R4.10.1現在)

4 閉 会

北海道における高病原性鳥インフルエンザの発生について

高病原性鳥インフルエンザについては、今シーズンは今までにない早い時期において、**道内の野鳥で確認**されていたところ。このため、道では家きん飼養農場への飼養衛生管理基準の遵守について注意喚起を行ってきたところだが、**胆振管内の厚真町の家きんで高病原性鳥インフルエンザが発生**。(国内では、今季2例目)

【発生及び防疫対応状況】

振興局	農場の概要	経緯	防疫計画
胆振	場所：厚真町 肉用鶏 163,474羽 (平飼い 18棟)	<ul style="list-style-type: none"> 10/27 14:00に農場から70羽死亡しているとの通報があり、立入検査の結果、同日18:00に簡易検査陽性 その後、石狩家保で実施した簡易検査及び遺伝子検査でも陽性となり10/28の10:00に疑似患畜決定 10/28 10:00 疑似患畜決定 10/31 8:00 殺処分完了 採卵鶏163,474羽 11/2 清掃・消毒・埋却作業終了 11/3 8:00 農場防疫措置完了 11/11 2回目の農場消毒 11/14 0:00 搬出制限区域解除(予定) 11/19 3回目の農場消毒 11/25 0:00 移動制限区域解除・防疫措置終了(予定) 殺処分作業 計画5日→実績4日 清掃・消毒作業 計画7日→実績6日 埋却作業 計画7日→実績6日	1日8時間、3交代制 1シフト120人 1日360人 (この他、集合施設、消毒ポイント等の動員あり) 約7日間(殺処分5日+清掃2日) 消毒ポイント 7ヶ所 埋却地 掘削123m

【動員体制】

	道	市町村等	計
10/28(金)	430	32	462
10/29(土)	460	32	492
10/30(日)	460	32	492
10/31(月)	460	32	492

※道の中に振興局含む
振興局(胆振、空知、石狩、日高)

【緊急防疫備蓄資材の搬出・搬入】

・新たにストックポイントとして設定された、花・野菜技術センター(滝川市)の備蓄資材の搬出・搬入作業を実施

・搬出 10/27(木) 19:30~28(金) 3:00

本庁畜産振興課 2人
空知総合振興局 農務課 4人

・搬入 10/31(月) 9:30~11:00

厚真町で余った資材をストックポイントに返納
本庁畜産振興課 2人
空知総合振興局 農務課 4人、農業改良普及センター中空知支所 7人、北部耕地出張所 17人

【空知総合振興局からの派遣状況】

各所属	2日目(10/29)	3日目(10/30)	4日目(10/31)
	夜シフト	朝シフト	夜シフト
総務課		1	
総務課(会計)			1
課税課		1	
納税課		1	
地域創生部地域政策課		1	1
保健環境部社会福祉課		1	1
保健環境部環境生活課		1	
札幌建設管理部建設行政課		1	1
札幌建設管理部入札契約課		1	1
札幌建設管理部用地課		1	
札幌建設管理部維持管理課		1	
札幌建設管理部地域調整課		1	
札幌建設管理部建設指導課		1	
札幌建設管理部道路課			1
産業振興部商工労働観光課		1	
産業振興部農務課	2		1
産業振興部調整課	3		2
産業振興部整備課	2		
産業振興部林務課	2		1
森林室		2	1
農業改良普及センター			1
農業改良普及センター南西部	1		
農業改良普及センター中	1		
南部耕地出張所	2		2
東部耕地出張所	2		1
計	15	15	15

※4日目(10/31)の夜シフトの派遣は中止

○その他

- ・ 集合場所 厚真町スポーツセンター
- ・ 振興局からの移動手段 借上バス
- ・ 集合施設～農場の移動は、バス移動
- ・ 基本的なシフトは、朝(10:30～18:30)、夕(18:30～2:30)、夜(2:30～10:30)
- ・ 各日日帰り
- ・ 作業に伴う物品、食事は全て現地で準備

○家畜保健衛生所の派遣状況

- ・ 10/28～11/1 所長1名
- ・ 10/28～10/31 1名
- ・ 11/1～11/2 1名

令和4年10月17日
農 政 部

家きんの高病原性鳥インフルエンザについて

1 発生状況

<海外>

本年4月以降も、アジア地域を中心とした近隣諸国のほか、欧州・米国の家きんや野鳥で流行。これらの地域から、営巣地を經由して、ウイルスが持ち込まれる可能性が有り、今シーズン（令和4年秋～5年夏）も嚴重な警戒が必要。

<国内>

昨シーズン（令和3年秋～4年春）は、全国で12道県25事例の発生があり、約189万羽を殺処分。道内では4月以降、家きん飼養農場で4事例が発生。

発生日	農場所在地	家きんの種類	殺処分羽数
4月16日	白老町	採卵鶏	約52万羽
	網走市	エミュー	486羽
		採卵鶏	115羽
4月26日	釧路市	エミュー	99羽
5月14日	網走市	採卵鶏	759羽

2 道の取組状況

(1)「北海道における高病原性鳥インフルエンザ発生検証及び対策検討会」

本年9月8日、道内における高病原性鳥インフルエンザの発生に関し、道内のウイルス学をはじめ、野鳥や野生動物の生態、家畜衛生等の専門家による検討会を開催し、それぞれの研究分野から意見をいただき、令和3年シーズンの検証及び令和4年シーズンの家きん飼養農場における発生防止に向けて対策を検討。（別紙）

(2) 発生の未然防止に向けた取組

ア 国内への侵入防止

- ・国際線ターミナルで動物検疫所と連携し違法な肉製品持込を防止啓発活動や、外国人技能実習生や留学生受入団体に対し、郵便物による持込防止の啓発を実施。

イ 道内への侵入防止

- ・道外からの移入家畜の着地検査を徹底。
- ・北海道海外悪性伝染病防疫対策連絡協議会等による道内空港、JR新函館北斗駅及びフェリーターミナル等での靴底消毒の実施やポスター掲示による注意喚起。

ウ 農場への侵入防止

- ・農場や関係団体等に情報提供や注意喚起。
- ・家畜保健衛生所による農場への立入検査により、飼養衛生管理指導等計画に沿った病原体の侵入防止対策並びに早期発見・早期通報の徹底を重点指導するとともに農場マニュアルの整備等を指導。
- ・家きんについては、モニタリング検査（臨床・抗体等）を継続し、令和4年10月から令和5年5月までの農場による毎月の自己点検を徹底するとともに、市町村毎の講習会等の開催、及び侵入リスク低減の要点を絞ったリーフレット等を作成するなど、家きん飼養農場に丁寧な指導を実施。

北海道における高病原性鳥インフルエンザ発生検証及び対策検討会の概要

1 R3シーズンの検証

- 大半の渡り鳥がウイルスを保有している可能性が高く、それらによって、道内に多量のウイルスが持ち込まれ、その後、冬期間群れで行動しているカラスや越冬中のオジロワシなどに感染し、農場周囲を含む地域内でウイルス量が増加した結果、死亡野鳥を補食した野生動物にも偶発的に感染。
- 発生農場における鶏舎への直接の侵入要因は断定できないが、大規模採卵鶏農場では、堆肥場の防鳥対策の不備が多数のカラスを誘引し、農場内にウイルスを侵入させ、その後の小動物等へのウイルス付着といったことが考えられる。
また、エミュー飼養農場においては放牧エリアが、感染経路として考えられる。

2 R4シーズンの侵入防止対策の検討

(1) ウイルスの動向

- R3シーズンと同様に、渡り鳥が道内に一定量のウイルスを持ち込み、カラスなど留鳥に伝播し、地域のウイルス量が増加する事が想定。死亡野鳥でウイルスが発見される事例は、氷山の一角であり、1羽でも見つければ、道内全域にウイルスが存在しているとの認識が必要。

(2) 死亡野鳥のモニタリング検査の継続及び強化の検討

- 死亡野鳥の早期発見と検査は、野鳥・野生動物間の伝播を速やかに把握し、農場への注意喚起につなげるとともに、オジロワシ等の希少鳥類の保護といった観点からも、引き続き重要であり、また、検査対象鳥種の拡大等について、環境省との協議が必要。

(3) 家きん飼養農場における対策

- 例えば、R3シーズンに発生したウイルスの場合、鶏に一定量(104個=10,000個)以上のウイルス粒子が暴露しないと感染が成立しない等の正確な知見を理解した上で、(農場全体の“ウイルス量ゼロ”を目指し、労力や資材を投入して疲弊することよりも)、それぞれの農場が、自農場における鶏舎周囲と鶏舎内を繋ぐリスクを的確に把握し、効率的にリスク低減を図る意識を持ち、環境整備による野鳥・野生動物の誘引防止や防鳥ネットや畜舎の定期的な点検による侵入防止対策、鶏舎前室において正しい手順で専用服への更衣・手指消毒を行うなどの基本的な衛生対策を確実に実施することが重要。

- 養鶏には多様な飼養形態があり、それぞれ防疫におけるポイントに特徴があり、主なものとして、
 - ①大規模な養鶏場では、業務多忙な従業員全員が、飼養衛生管理マニュアルや消毒手順の目的を理解して遵守意識を共有する必要があること
 - ②いわゆる自然養鶏農場等では、その経営信条などから、実行できる衛生対策に差があること
 - ③大型家きんの飼養農場では、鳥の生理・生態を考慮した飼養形態が感染リスクに直結すること
などがあげられる。

- 農場への指導にあたっては、指導する者が、上記のような多岐にわたる課題に応じた丁寧な説明が必要なことを理解して、要点を絞った情報発信をはじめ、開催方法を工夫した参加しやすい講習会や勉強会の開催、巡回指導等の実施により、リスク低減に繋げていくことが重要。

北海道における高病原性鳥インフルエンザの発生検証及び対策検討会委員

さこだ よしひろ
迫田 義博 [コーディネーター]

北海道大学獣医学研究院獣医学部門病原制御学分野教授 [ウイルス学]

うらぐち こうじ
浦口 宏二 道立衛生研究所 研究員 [キツネの生態]

そうま こうさく
相馬 幸作 東京農業大学生物産業学部北方圏農学科教授 [エミューの飼養管理]

たまだ かつみ
玉田 克巳 (地独) 道総研生物多様性保全グループ主任主査 [カラスの生態]

やまもと ひで お
山本 秀雄

(一社) 北海道ペストコントロール協会 技術担当理事 [ネズミ対策]

わたなべ ゆきこ
渡邊有希子 猛禽類医学研究所 副代表 [猛禽類の生態]

すずき ひでき
鈴木 英樹 北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課長 [野生動物対策]

おだ しげき
小田 茂樹 北海道農政部生産振興局畜産振興課家畜衛生担当課長 [家畜衛生対策]

豚熱、アフリカ豚熱等について

1 発生状況

(1) 豚熱

飼養豚：平成30年9月に岐阜県で発生以降、野生イノシシ等を介し感染地域が拡大。令和元年9月より飼養豚に予防的ワクチン接種を開始し、令和4年9月時点で39都府県で接種。最近はワクチン接種県において発生継続（最終発生：令和4年9月21日、群馬県、17県84事例）。

野生イノシシ：令和4年9月時点で、岩手県から山口県までの32都府県に感染拡大。感染が確認されている地域を中心に、経口ワクチンの散布と捕獲・検査を強化。

(2) アフリカ豚熱

海外：平成30年8月にアジアで初めて中国で発生し、全土に拡大。以降、モンゴル、東南アジア諸国、北朝鮮など拡大。韓国では本年8月に飼養豚で発生。

空港におけるウイルス確認：

中国、ベトナムなど発生国からの旅客が違法に持ち込んだ豚肉等から、平成30年10月以降、105例のウイルス遺伝子陽性事例を確認（新千歳空港12事例）。
うち4例はウイルス分離陽性。国は令和2年度の法改正で家畜防疫官の権限や違反者の罰則を強化。また新千歳空港の検疫探知犬を増頭し検疫体制強化。

2 道の取組状況

(1) 国内への侵入防止

- ・国際線ターミナルで動物検疫所と連携し違法な肉製品持込を防止啓発活動や、外国人技能実習生や留学生受入団体に対し、郵便物による持込防止の啓発を実施。

(2) 道内への侵入防止

- ・道外からの移入家畜の着地検査を徹底。
- ・北海道海外悪性伝染病防疫対策連絡協議会等による道内空港、JR新函館北斗駅及びフェリーターミナル等での靴底消毒の実施やポスター掲示による注意喚起。
- ・道外からの狩猟者及び養蜂家に対する注意喚起。

(3) 農場への侵入防止

- ・農場や関係団体等に情報提供や注意喚起。
- ・家畜保健衛生所による農場への立入検査により、飼養衛生管理指導等計画に沿った病原体の侵入防止対策並びに早期発見・早期通報の徹底を重点指導するとともに農場マニュアルの整備等を指導。
- ・豚飼養者に対し、3か月ごとの農場の自己点検を徹底。

発生に備えた取組みについて

1 危機管理体制の維持

- ・本庁及び(総合)振興局の「海外悪性伝染病警戒本部」において、定期的に幹事会を開催するとともに、防疫対応マニュアルを周知・徹底。

2 北海道家畜伝染病防疫対策要綱、防疫マニュアルの改正

- ・昨シーズンの発生を踏まえ、必要な改正を進める。
- ・エミューの高病原性鳥インフルエンザに関するマニュアル(案)作成。

3 緊急防疫資材の増強

- ・新たに、滝川市(旧滝川試験場跡地)に20万羽規模の備蓄資材を追加整備し、既存ストックポイント(道央(日高町:門別競馬場)及び道東(本別町:北海道立農業大学校))と合わせて40万羽規模の防疫資材を備蓄。

4 防疫協定の締結等

- ・防疫資材の供給(北海道動物器薬協会、(株)ホームック・ニコット)
- ・防疫資材の貸与((株)共成レンテム)
- ・防疫資材の輸送(札幌通運(株)、札幌自動車運輸(株)、日本通運(株))
- ・殺処分用炭酸ガスの輸送(エア・ウォーター(株))
- ・埋却作業(各(総合)振興局毎の建設業協会等)
- ・消毒ポイント等の消毒(一般社団法人北海道ペストコントロール協会)

5 農場ごとの防疫計画の点検・見直し及び防疫訓練・演習の実施

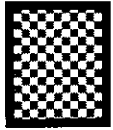
- ・各(総合)振興局において、農場ごとに動員や埋却などの流れを具体的に定めている防疫計画を点検し、発生時の円滑な防疫作業を想定。
- ・併せて、管内農場における高病原性鳥インフルエンザ等の発生を想定した防疫訓練及び防疫演習を実施。

緊急防疫資材備蓄強化

<大規模養鶏場所在地>

- 系列農場で50万羽～
- 1農場で50万羽～
- 30万～50万羽
- 10万～30万羽

<緊急防疫資材備蓄場所>



(新規) 緊急防疫資材ストックポイント(1カ所)

- 20万羽規模の防疫作業に対応可能な資材を保管
- 大規模養鶏場における48時間以内の防疫作業に使用
- 複数農場の同時発生や50万羽規模の発生への対応



(現行) 家畜保健衛生所(14カ所)及び既存ストックポイント

- 1万羽規模の防疫作業に対応可能な資材を保管
- 小規模養鶏場における防疫作業に使用
- 大規模養鶏場における防疫作業のバックアップに使用
- 10万羽規模の防疫作業に対応可能な資材を保管



新規道央ポイント

滝川(滝川市)

2時間で搬入

4時間で搬入

道東ポイント
農業大学校(本別町)

3時間で搬入

道央ポイント
門別競馬場(日高町)

3時間で搬入

4時間で搬入

海外悪性伝染病への対応について（空知）

令和4年(2022年)年11月7日
北海道空知総合振興局産業振興部

1 最近の発生状況（家きん）

(1) 令和2年シーズン

全国 18県 52事例(全てH5N8) 約971万羽

道内 令和3年1月21日の千葉県の発生では、赤平市の農場が疫学関連農場なり
637羽の疑似患畜を殺処分。

(2) 令和3年シーズン

全国 12道県 25事例(H5N1、H5N8) 約189万羽

道内 令和4年4月～5月に白老町1、網走市2、釧路市1 計4事例発生
採卵鶏 約52万羽、エミュー2事例 約600羽 (全てH5N1)

(参考) 国内における高病原性鳥インフルエンザ発生件数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
全国	24 (204)	0	0	0	6 (27)	0	12 (159)	1 (9)	0	0	52 (971)	25 (189)
うち 道内							1 (28)				※ (0.06)	4 (52)
亜型	H5N1				H5N8		H5N6	H5N6			H5N8	H5N1 H5N8

() : 羽数(万) ※疫学関連

2 管内の家畜飼養状況（令和4年2月1日現在）

区分	戸数	頭羽数	飼養頭数の上位3位		
			1	2	3
牛、めん羊、山羊	167戸	20,466頭	深川市	長沼町	由仁町
豚	12戸	30,481頭	砂川市	栗山町	滝川市
家きん(きじ、あひる含む)	65戸	230,014羽	芦別市	由仁町	栗山町

3 組織体制

(1) 空知総合振興局海外悪性伝染病警戒本部

- ・本部長：局長
- ・幹事会：幹事長 産業振興部長
- ・年2回程度（春と秋）に警戒本部幹事会を開催

(2) 空知総合振興局家畜伝染病対策本部（案）

- ・本部長：局長
- ・異常家畜を疑う事例が発生した場合
→ 局対策本部（指揮室）を設置し、対策本部会議の開催
- ・疑似患畜決定→ 防疫措置開始

※ 対策本部設置については、海外悪性伝染病が発生し、疑い事例を確認後に設置するため、現時点では対策本部設置要領（案）とする。下線部は、発生した病名を記載。

2 これまでの対応

(1) 発生の未然防止に向けた取組

- ① 高病原性鳥インフルエンザ（家畜保健衛生所実施）
 定点モニタリング（3戸）、強化モニタリング（3戸）の実施
 立入検査の実施（100羽以上の家きん飼養農家）
 飼養衛生管理基準の自己点検の実施及び家保への報告
- ② 豚熱（家畜保健衛生所実施）
 立入検査の実施（全戸）
- ③ 共通
 - ア 広報誌の発行
 国内外の悪性伝染病の発生状況、飼養衛生管理基準の遵守等、発生防止に係る注意喚起とし「空知の家畜衛生（号外）」を随時発行
 - イ 情報提供・啓發文書通知
 発生状況、注意・啓發文書等について随時通知
 - ウ 輸移入家畜の着地検査

(2) 発生に備えた取組

- ① 庁内関係部・課等との情報共有
 空知総合振興局海外悪性伝染病警戒本部幹事会の開催
 令和4年4月25日（月）
- ② 防疫計画
 - ・家きん：100羽以上の家きん飼養農場毎に作成
 - ・豚：1,000頭以上の豚飼養農場毎に作成

区 分		農場数	備 考
家きん	1万羽以上	4	管内最大規模 約11万羽
	1万羽未満	18	
	計	22	
豚	5千頭以上	3	農家戸数は6戸 1戸で3農場の農家あり。3農場合計で 管内最大規模 約9万頭
	5千頭未満	3	
	計	6	

・内容：畜舎の配置・構造、畜舎毎の飼養頭羽数・殺処分～消毒の作業時間・人数、埋却場所、消毒ポイント、必要資材・量・調達方法、現地集合施設等

- ③ 防疫対応マニュアル作成
 - ・空知総合振興局高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ防疫対応マニュアル（令和2年3月16日最終改正）
 - ・空知総合振興局豚熱及びアフリカ豚熱防疫対応マニュアル（令和2年3月16日制定）
- ④ 埋却協定
 一般社団法人空知建設業協会と空知総合振興局で「家畜伝染病発生時における埋却等業務に関する協定」を締結 締結日：平成29年3月31日
- ⑤ 防疫演習等の実施

	開催月日	開催場所	参集範囲	内 容
高病原性鳥インフルエンザ防疫訓練	R4.9.30（金） 13:00～16:00	由仁町文化交流館 由仁町有地	建設協会・建設業者、各市町、警察署、陸上自衛隊、振興局、関係機関	集合施設の運営（防疫衣着脱含む） 埋却作業の実演 参加者 120名

3 今後の対応

- (1) 空知総合振興局海外悪性伝染病警戒本部幹事会の開催
春と秋の年2回、他随時
- (2) 防疫計画の整理（随時）
現地確認等を実施し、既に作成している防疫計画の整理を行う。
- (3) その他
 - ・空知総合振興局海外悪性伝染病警戒本部構成員及び市町等への情報提供を継続
 - ・飼養衛生管理基準の遵守について指導・啓発を継続

4 発生状況

農林水産省等のホームページで随時発生状況が確認できます。

- 鳥インフルエンザに関する情報
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/>
- 高病原性鳥インフルエンザに関する情報（環境省）
https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/
- 豚熱(CSF)について
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/>
- アフリカ豚熱(ASF)について
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf/html>
- アフリカ豚熱ウイルス遺伝子検査陽性事例（農林水産省動物検疫所）
https://www.maff.go.jp/aqs/topix/pdf/asf_positive_97_jpn.pdf
- 口蹄疫に関する情報
https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/

令和4年11月7日 環境生活課

野鳥の高病原性鳥インフルエンザ対策について

【令和3年シーズン（令和3年10月～令和4年9月）対応状況】

■ 鳥類生息状況調査

＜概要＞ 渡り鳥の飛来状況や野鳥の生息状況及び異常の発生について調査及び情報収集するとともに、対応レベルに応じて監視等を強化

＜R3シーズン対応状況＞

- R3. 4. 30～R3. 11. 1 「対応レベル1」（通常時、情報収集、監視）
- R3. 11. 2～R3. 11. 10 韓国での発生を受け「対応レベル2」（監視強化）
- R3. 11. 11～R4. 6. 15 国内複数発生を受け「対応レベル3」（最高レベル、監視強化）
- R4. 6. 16～R4. 6. 19 国内の野鳥監視重点区域が1か所となったことから「対応レベル2」
- R4. 6. 20～R4. 9. 28 国内の野鳥監視重点区域が全て解除となったことから「対応レベル1」

＜参考：R4シーズン対応状況＞

- R4. 9. 29～10. 6 神奈川県での発生*を受け「対応レベル2」（監視強化）
※ 国では、本年6月以降、感染が確認されていなかったことから、本件をR4シーズン案件として扱っている。
- R4. 10. 7～ 宮城県での発生を受け「対応レベル3」（最高レベル、監視強化）
※ 以降、北海道別海町内のカモ糞便を含め、国内各地で散発的に発生中

■ 死亡野鳥等調査

＜概要＞ 野鳥の死亡個体について、簡易キットによるA型鳥インフルエンザウイルス検査（簡易検査）を実施

＜R3シーズン対応状況＞

- 検査件数（北海道実施分）：121例 183羽（うち簡易検査陽性45例、高病原性確認46例）
- 野鳥での高病原性確認事例：国内107例、道内70例（環境省所管分含む）
※ 野鳥以外では、キツネ、タヌキにおける確認事例が各1例、家きん4例を確認

【参考：道内における野鳥の高病原性確認件数】

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
高病原性	10	0	0	0	0	0	10	0	0	0	3	70

■ 野鳥監視重点区域調査

＜概要＞ ・野鳥における高病原性鳥インフルエンザが確認された場合、環境省は回収地点から半径10km以内を野鳥監視重点区域に指定
・当該区域において、3日間程度、大量死等の異常、野鳥の生息状況等を調査

＜R3シーズン対応状況＞

いずれの区域においても、大量死等の異常は確認されなかった

■ 普及啓発

- 高病原性の発生状況や野鳥との接し方などについてホームページ、チラシによる発信
- 住民等への周知について、市町村や動物園等に通知

死亡野鳥等の高病原性鳥インフルエンザ検査及び感染確認状況（令和3年シーズン）

○振興局別簡易検査件数及び高病原性確認件数

振興局	北海道所管		環境省所管	高病原性 確認件数 合計
	簡易検査 件数	高病原性 確認件数	高病原性 確認件数	
空知	3	0	0	0
石狩	18	11	0	11
後志	2	0	0	0
胆振	11	0	1	1
日高	9	2	4	6
渡島	0	0	0	0
檜山	1	0	0	0
上川	13	0	0	0
留萌	0	0	1	1
宗谷	4	3	2	5
オホ	19	7	11	18
十勝	9	0	0	0
釧路	10	5	0	5
根室	22	18	5	23
計	121	46	24	70

○月別簡易検査件数及び高病原性確認件数

月	北海道所管		環境省所管	高病原性 確認件数 合計
	簡易検査 件数	高病原性 確認件数	高病原性 確認件数	
10	4	0	0	0
11	4	0	0	0
12	4	0	0	0
1	5	3	3	6
2	22	11	2	13
3	15	9	5	14
4	52	23	11	34
5	9	0	3	3
6	3	0	0	0
7	1	0	0	0
8	1	0	0	0
9	1	0	0	0
計	121	46	24	70

○種別簡易検査件数及び高病原性確認件数

種		簡易検査 件数	高病原性 確認件数
道所管	カンムリカイツブリ	1	0
	ハシボソミズナギドリ	1	0
	マガン	1	0
	オオハクチョウ	28	0
	コハクチョウ	6	0
	オシドリ	1	0
	マガモ	18	0
	コガモ	1	0
	キンクロハジロ	3	0
	スズガモ	1	0
	トビ	2	1
	ノスリ	2	0
	カワラバト	1	0
	フクロウ	3	0
	ハシブトガラス	51	45
	ハシボソガラス*	1(2)	0(1)
	小計	121	46
国所管	オオヒシクイ	—	1
	オジロワシ	—	18
	オオワシ	—	3
	クマタカ	—	2
	小計	—	24

* ハシボソガラスの()内はハシブトガラスと同時に回収、検査されたものであり、件数はハシブトガラスの内数となる。

○市町村別高病原性確認件数

振興局	件数	市町村	件数
石狩	11	札幌市	11
胆振	1	むかわ町	1
日高	6	様似町	1
		えりも町	5
留萌	1	苫前町	1
宗谷	5	浜頓別町	2
		利尻富士町	1
		礼文町	2
オホーツク	18	北見市	5
		網走市	1
		紋別市	1
		美幌町	2
		斜里町	2
		小清水町	1
		佐呂間町	2
		雄武町	1
		興部町	1
		大空町	2
釧路	5	釧路市	5
根室	23	根室市	9
		中標津町	1
		標津町	3
		羅臼町	10
合計			70

死亡野鳥等の高病原性鳥インフルエンザ検査状況（令和3年シーズン）

1 北海道が実施した簡易検査の結果

No.	回収日	振興局名	発見場所	鳥の種類	羽数	簡易検査	遺伝子検査	病原性
1	10月24日	上川	旭川市	ハシブトガラス	1	陰性	陰性	
2	10月26日	上川	旭川市	マガモ	1	陽性	陽性	低病原性
3	10月26日	オホーツク	小清水町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
4	10月26日	釧路	釧路市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
5	11月8日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	2	陰性	陰性	
6	11月16日	檜山	上ノ国町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
7	11月16日	根室	中標津町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
8	11月20日	日高	様似町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
9	12月4日	オホーツク	佐呂間町	フクロウ	1	陰性	陰性	
10	12月10日	後志	岩内町	マガモ	1	陰性	陰性	
11	12月20日	宗谷	稚内市	スズガモ	1	陰性	陰性	
12	12月23日	上川	旭川市	カワラバト	2	陰性	陰性	
13	1月8日	日高	新冠町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
14	1月13日	日高	様似町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
15	1月20日	根室	根室市	ハシブトガラス	3	陽性	陽性	高病原性
16	1月23日	根室	根室市	ハシブトガラス	5	陽性	陽性	高病原性
17	1月28日	根室	根室市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
18	2月1日	日高	新ひだか町	マガモ	1	陰性	陰性	
19	2月3日	根室	根室市	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
20	2月6日	根室	中標津町	フクロウ	1	陰性	陰性	
21	2月7日	上川	下川町	フクロウ	1	陰性	陰性	
22	2月7日	日高	えりも町	ハシブトガラス	5	陽性	陽性	高病原性
23	2月7日	十勝	池田町	マガモ	1	陰性	陰性	
24	2月8日	根室	標津町	ハシブトガラス	4	陽性	陽性	高病原性
25	2月8日	日高	えりも町	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
26	2月8日	胆振	室蘭市	ノスリ	1	陰性	陰性	
27	2月8日	オホーツク	斜里町	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
28	2月11日	日高	新ひだか町	マガモ	1	陰性	陰性	
29	2月11日	オホーツク	網走市	マガモ	1	陰性	陰性	
30	2月12日	根室	羅臼町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
31	2月14日	胆振	登別市	キンクロハジロ	1	陰性	陰性	
32	2月14日	根室	羅臼町	ハシブトガラス	3	陽性	陽性	高病原性
33	2月14日	根室	根室市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
34	2月15日	宗谷	利尻富士町	ハシブトガラス	5	陽性	陽性	高病原性
35	2月18日	オホーツク	北見市	マガモ	1	陰性	陰性	
36	2月18日	根室	根室市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
37	2月19日	根室	標津町	ハシブトガラス	4	陽性	陽性	高病原性
38	2月24日	根室	標津町	ハシブトガラス	4	陽性	陽性	高病原性
39	2月25日	オホーツク	斜里町	キンクロハジロ	1	陰性	陰性	
40	3月1日	根室	根室市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
41	3月1日	宗谷	礼文町	ハシブトガラス	3	陽性	陽性	高病原性
42	3月4日	胆振	伊達市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
43	3月9日	根室	羅臼町	ハシブトガラス	4	陽性	陽性	高病原性

次頁に続く

1 北海道が実施した簡易検査の結果(続き)

No.	回収日	振興局名	発見場所	鳥の種類	羽数	簡易検査	遺伝子検査	病原性
44	3月14日	十勝	帯広市	マガモ	1	陰性	陰性	
45	3月14日	根室	根室市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
46	3月14日	根室	羅臼町	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
47	3月14日	宗谷	浜頓別町	ハシブトガラス	3	陽性	陽性	高病原性
48	3月18日	日高	日高町	ノスリ	1	陰性	陰性	
49	3月23日	オホーツク	興部町	トビ	1	陰性	陰性	
50	3月28日	十勝	清水町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
51	3月29日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	5	陽性	陽性	高病原性
52	3月31日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	3	陽性	陽性	高病原性
53	3月31日	胆振	むかわ町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
54	3月31日	釧路	釧路市	ハシブトガラス	4	陰性	陽性	高病原性
55	4月1日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
56	4月2日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
57	4月4日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
58	4月4日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
59	4月4日	根室	羅臼町	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
60	4月4日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
61	4月5日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
62	4月5日	石狩	札幌市	コガモ	1	陰性	陰性	
63	4月5日	上川	旭川市	コハクチョウ	1	陰性	陰性	
64	4月6日	オホーツク	北見市	ハシブトガラス	3	陽性	陽性	高病原性
65	4月6日	釧路	釧路市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
66	4月6日	十勝	中札内村	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
67	4月7日	十勝	帯広市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
68	4月7日	上川	当麻町	コハクチョウ	1	陰性	陰性	
69	4月8日	石狩	札幌市	マガモ	1	陰性	陰性	
70	4月8日	オホーツク	興部町	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
71	4月8日	オホーツク	北見市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
72	4月8日	オホーツク	斜里町	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
73	4月9日	根室	羅臼町	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
74	4月9日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
75	4月9日	釧路	弟子屈町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
76	4月11日	オホーツク	斜里町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
77	4月11日	十勝	帯広市	マガモ	1	陰性	陰性	
78	4月11日	十勝	中札内村	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
79	4月11日	オホーツク	北見市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
80	4月11日	根室	羅臼町	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
				ハシボソガラス	1			
81	4月12日	釧路	釧路市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
82	4月13日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
83	4月13日	上川	愛別町	コハクチョウ	1	陰性	陰性	
84	4月14日	上川	旭川市	マガモ	1	陰性	陰性	
85	4月14日	十勝	更別村	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
86	4月14日	上川	名寄市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
87	4月15日	上川	士別市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
88	4月17日	胆振	むかわ町	ハシブトガラス	2	陰性	陰性	
89	4月19日	オホーツク	北見市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	

1 北海道が実施した簡易検査の結果(続き)

No.	回収日	振興局名	発見場所	鳥の種類	羽数	簡易検査	遺伝子検査	病原性
90	4月19日	上川	士別市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
91	4月19日	空知	沼田町	コハクチョウ	1	陰性	陰性	
92	4月20日	オホーツク	北見市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
93	4月20日	釧路	釧路市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
94	4月21日	上川	名寄市	マガモ	1	陰性	陰性	
95	4月21日	オホーツク	北見市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
96	4月22日	オホーツク	北見市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
97	4月22日	オホーツク	紋別市	ハシブトガラス	1	陽性	陽性	高病原性
98	4月23日	胆振	苫小牧市	コハクチョウ	1	陰性	陰性	
99	4月25日	根室	羅臼町	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
100	4月27日	胆振	白老町	マガモ	1	陰性	陰性	
101	4月27日	釧路	弟子屈町	マガモ	1	陰性	陰性	
102	4月28日	釧路	弟子屈町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
103	4月28日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	2	陽性	陽性	高病原性
104	4月28日	釧路	釧路市	マガン	1	陰性	陰性	
105	4月28日	胆振	伊達市	ハシブトガラス	1	陰性	陰性	
				ハシボンガラス	1	陰性	陰性	
106	4月29日	釧路	釧路市	トビ	1	陰性	陽性	高病原性
107	5月1日	胆振	登別市	マガモ	1	陰性	陰性	
108	5月2日	後志	仁木町	マガモ	1	陰性	陰性	
109	5月2日	根室	別海町	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
110	5月5日	上川	名寄市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
111	5月11日	胆振	苫小牧市	キンクロハジロ	1	陰性	陰性	
112	5月11日	胆振	苫小牧市	カンムリカイツブリ	1	陰性	陰性	
113	5月14日	空知	美唄市	オオハクチョウ	1	陰性	陰性	
114	5月17日	空知	月形町	コハクチョウ	1	陰性	陰性	
115	5月24日	石狩	札幌市	マガモ	1	陰性	陰性	
116	6月1日	十勝	帯広市	マガモ	1	陰性	陰性	
117	6月20日	日高	平取町	オシドリ	1	陰性	陰性	
118	6月22日	オホーツク	網走市	ハシボソミズナギドリ	3	陰性	陰性	
119	7月8日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	2	陰性	陰性	
120	8月29日	石狩	札幌市	ハシブトガラス	1	陰性	陰性	
121	9月16日	石狩	千歳市	ハシボンガラス	2	陰性	陰性	
計					183			

2 環境省所管種の検査結果 (北海道関係分・遺伝子検査で陽性とされたもののみ)

No.	回収日	振興局名	発見場所	鳥の種類	羽数	簡易検査	遺伝子検査	病原性
1	1月2日	留萌	苫前町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
2	1月23日	オホーツク	雄武町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
3	1月22日	オホーツク	小清水町	オオワシ	1	陰性	陽性	高病原性
4	2月2日	日高	えりも町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
5	2月10日	根室	羅臼町	オジロワシ	1	陽性	陽性	高病原性
6	3月3日	オホーツク	佐呂間町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
7	3月8日	オホーツク	北見市	オオワシ	1	陰性	陽性	高病原性
8	3月22日	オホーツク	佐呂間町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
9	3月24日	オホーツク	美幌町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
10	3月29日	根室	羅臼町	オオワシ	1	陰性	陽性	高病原性
11	4月9日	日高	えりも町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
12	4月12日	胆振	むかわ町	クマタカ	1	陰性	陽性	高病原性
13	4月9日	オホーツク	大空町	オジロワシ	1	陽性	陽性	高病原性
14	4月15日	宗谷	礼文町	オジロワシ	1	陽性	陽性	高病原性
15	4月15日	オホーツク	網走市	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
16	4月18日	根室	中標津町	オオヒシクイ	1	陰性	陽性	高病原性
17	4月18日	オホーツク	大空町	オジロワシ	1	陽性	陽性	高病原性
18	4月20日	日高	様似町	クマタカ	1	陽性	陽性	高病原性
19	4月19日	宗谷	浜頓別町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
20	4月25日	根室	羅臼町	オジロワシ	1	陽性	陽性	高病原性
21	4月26日	日高	えりも町	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
22	5月6日	オホーツク	北見市	オジロワシ	1	陰性	陽性	高病原性
23	5月6日	根室	根室市	オジロワシ	1	陽性	陽性	高病原性
24	5月14日	オホーツク	美幌町	オジロワシ	1	陽性	陽性	高病原性

令和4(2022)年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥 ○例目	場所		検体情報			簡易検査			遺伝子検査			野鳥監視重点区域	
	都道府県	市町村	検体の種類	種名	回収羽数/回収数	結果	結果判明日	HA型	病原性	結果判明日	最終判定	指定日	解除日
1例目	神奈川県	伊勢原市	死亡野鳥	ハヤブサ	1	簡易陽性	9/26	H5亜型	H5N1高病原性	9/29	H5N1高病原性	9/26	10/23解除
2例目	宮城県	栗原市	死亡野鳥	マガン	1	簡易陽性	10/4	H5亜型	H5N1高病原性	10/7	H5N1高病原性	10/4	11/11予定 (5例目と重複)
3例目	福井県	南越前町	死亡野鳥	ハヤブサ	1	簡易陰性	10/12	H5亜型	H5亜型高病原性	10/14	NA亜型検査中	10/14	11/8予定
4例目	北海道	別海町	野鳥糞便	カンカモ類	105 (うち5サンプルで検出、その後3サンプルで検出)	-	-	H5亜型	H5亜型高病原性	10/17	H5N1高病原性	10/17	11/5予定
5例目	宮城県	栗原市	死亡野鳥	マガン	1	簡易陰性	10/14	H5亜型	H5亜型高病原性	10/18	H5N1高病原性	10/17	11/11予定
6例目	新潟県	新潟市	衰弱野鳥	ハヤブサ	1	簡易陽性	10/16	H5亜型	H5亜型高病原性	10/20	H5N1高病原性	10/16	11/18予定 (7例目と重複)
-	静岡県	湖西市	死亡野鳥	マガモ	1	簡易陽性	10/21	H5/H7以外	陽性 (高病原性でない鳥インフル エンザウイルス)	10/24	陽性 (高病原性でない鳥インフル エンザウイルス) H6N2	10/21	10/24解除
7例目	新潟県	聖籠町	死亡野鳥	ノスリ	1	簡易陰性	10/25	H5亜型	H5亜型高病原性	10/28	NA亜型検査中	10/26	11/18予定
8例目	北海道	紋別市	野鳥糞便	カンカモ類	109 (うち1サンプルで検出)	-	-	H5亜型	H5N1高病原性	10/31	H5N1高病原性	10/31	11/20
9例目	北海道	札幌市	死亡野鳥	ハシブトガラス	1	簡易陽性	10/28	H5亜型	H5亜型高病原性	10/31	H5N2高病原性	10/31	11/25
疑い 事例	北海道	斜里町	死亡野鳥	ハシブトガラス	1	簡易陽性	10/23	H5亜型	検査中	検査中	検査中	10/26	11/20予定
疑い 事例	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	1	簡易陽性	11/2	検査中	検査中	検査中	検査中	11/2	11/29予定

死亡・衰弱野鳥発見時の対応について

死体発見・通報

地域住民等

- 市役所・町役場
- 警察署
- 道路管理者
- その他施設管理者

※お知らせいただきたいこと

- ・発見日時
- ・発見場所(わかる範囲でできるだけ詳しく)
- ・鳥の状態(死体(損傷の有無)・衰弱等)
- ・鳥の特徴(大きさ・羽色等わかる範囲で)・数
- ・状況がわかる方(発見者等)の連絡先

鳥の種類・数、損傷程度により廃棄を
お願いすることがあります(加工を含む
小鳥類の検査は、原則として同時又は
同地点3日累計5羽以上で実施)

空知総合振興局環境生活課

現場確認・回収

検査の必要性を速やかに判断し、死体の損傷や拡散を防止するため、
発見地区管轄の関係機関等に次の対応をお願いすることがあります

- 写真撮影 ①死体発見場所及びその周囲の状況がわかる遠景
②死体の写真(発見した時のままで)
③必要に応じ死体の部分接写(異状のある箇所等)
- データ送信⇒振興局環境生活課へ(回収後の連絡・送信でもOK)
送信時に担当へ電話でご連絡をお願いいたします
受信確認し次第鳥種、引取り有無を判断し、回答します

- 鳥の回収 ①マスク、使い捨て手袋装着
②ビニール袋に手を入れ、死体を掴んで裏返し密閉
③広げておいた別のビニール袋に入れる
④さらに袋に包み、段ボール箱に入れるのが望ましい
⑤手洗い・うがい、靴の泥を落とし、靴底を洗う
※まだ生存→逃げようとする鳥を無理に捕獲する必要はありません。
(通行の支障にならない場所へ移動させ、死亡又は瀕死を待ち回収)

- 死体の一時保管
※引取りまでの一時保管をお願いすることがあります(墓口、車庫等)

検査又は廃棄

- 【検査対象外】
- ・鳥の種類、数が対象外
 - ・死因が明らか(衝突等)
 - ・死体の損傷が著しい
- ↓
- そのまま廃棄(一般廃棄物)

【上記以外・もしくは判断の
つかないもの】

↓

振興局が引取り
(夜間回収の場合は翌朝)

↓

現物確認による判断

- ↓
- 廃棄
- ↓
- 簡易検査
- ↓
- 現場の石灰消毒
(石灰をお渡しし、散布を
お願いすることがあります)

開庁時(平日8:45~17:30) 0126-20-0045(直通)

閉庁時(土日祝・上記時間外) 0126-20-0200(代表)

電子メール sorachi.kankyo1@pref.hokkaido.lg.jp(データ送信用 スマホからの撮影・送信可能です)

※ 閉庁時は警備会社が応答し担当者へ連絡します。連絡がつき次第、折り返し担当から電話します。

死んだ鳥などの野生動物を見つけたら

- 死んでいたり、衰弱している野生動物を見つけたときは、素手で触らないようにしましょう。
- 野生動物やその排泄物に触れた後は、手洗いやうがいをお願いします。
- 水辺等に立ち寄って、野鳥の糞を踏んだ場合は、念のために靴底を洗いましょう。

鳥インフルエンザウイルスについて

◇ 同じ場所でたくさんの野鳥が死んでいたら、お住まいの(総合)振興局環境生活課にご連絡ください。

※ 国の基準等に基づき、鳥インフルエンザウイルスの感染が疑われると判断された場合は、(総合)振興局が死体を回収し、感染の有無について検査します。(回収は感染が疑われる場合の検査を目的とするものであり、全ての野生動物の死体を回収するものではありません。)

※ 感染の疑いがない場合は、お住まいの市町村のルールに従い、廃棄物として処分することも可能です。その際は、素手で直接触らず、使い捨て手袋等を使用し、ビニール袋に入れきちんと封をしてください。

鳥インフルエンザウイルスは、感染した動物との濃密な接触等の特殊な場合を除いて、通常では人に感染しないと考えられています。日常生活においては、過度に心配する必要はありません。

空知総合振興局
海外悪性伝染病警戒本部幹事会

- 1 家きんの高病原性鳥インフルエンザについて
- 2 豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫の発生状況

空知家畜保健衛生所

1

- 1 家きんの高病原性鳥インフルエンザについて

2

昨シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生状況

○家きん 121 県25事例 ※羽数の単位は万羽

発生地	発生日	種別	種名	羽数
1 群馬県高崎市	11.11	陸鳥類	H5N1	1.0
2 埼玉県川口市	11.13	陸鳥類	H5N1	1.0
3 埼玉県川口市	11.15	陸鳥類	H5N1	1.0
4 埼玉県川口市	11.17	陸鳥類	H5N1	1.0
5 埼玉県川口市	12.3	陸鳥類	H5N1	1.0
6 千葉県野田市の養鶏場	12.5	家禽類	H5N1	1.0
7 埼玉県川口市	12.7	陸鳥類	H5N1	1.0
8 埼玉県川口市	12.7	陸鳥類	H5N1	1.0
9 埼玉県川口市	12.12	陸鳥類	H5N1	1.0
10 埼玉県川口市	12.21	陸鳥類	H5N1	1.0
11 埼玉県川口市	1.4	陸鳥類	H5N1	1.0
12 埼玉県川口市	1.4	陸鳥類	H5N1	1.0
13 埼玉県川口市	1.4	陸鳥類	H5N1	1.0
14 埼玉県川口市	1.13	陸鳥類	H5N1	1.0
15 埼玉県川口市	1.13	陸鳥類	H5N1	1.0
16 埼玉県川口市	1.13	陸鳥類	H5N1	1.0
17 埼玉県川口市	1.26	陸鳥類	H5N1	1.0
18 埼玉県川口市	1.26	陸鳥類	H5N1	1.0
19 埼玉県川口市	1.28	陸鳥類	H5N1	1.0
20 埼玉県川口市	1.28	陸鳥類	H5N1	1.0
21 埼玉県川口市	1.28	陸鳥類	H5N1	1.0
22 埼玉県川口市	2.3	陸鳥類	H5N1	1.0
23 埼玉県川口市	4.8	陸鳥類	H5N1	1.0
24 埼玉県川口市	4.12	陸鳥類	H5N1	1.0
25 埼玉県川口市	4.16	陸鳥類	H5N1	1.0
26 埼玉県川口市	4.16	陸鳥類	H5N1	1.0
27 埼玉県川口市	4.16	陸鳥類	H5N1	1.0
28 埼玉県川口市	4.26	陸鳥類	H5N1	1.0
29 埼玉県川口市	5.17	陸鳥類	H5N1	1.0
30 埼玉県川口市	5.14	陸鳥類	H5N1	1.0

○野鳥 8道府県107事例 ※羽数の単位は万羽

発生地	発生日	種別	種名	羽数
1 埼玉県川口市	11.8	陸鳥類	H5N1	3.4
2 埼玉県川口市	11.9	陸鳥類	H5N1	3.14
3 埼玉県川口市	11.14	陸鳥類	H5N1	3.14
4 埼玉県川口市	11.22	陸鳥類	H5N1	3.14
5 埼玉県川口市	11.22	陸鳥類	H5N1	3.14
6 埼玉県川口市	11.29	陸鳥類	H5N1	3.14
7 埼玉県川口市	12.1	陸鳥類	H5N1	3.2
8 埼玉県川口市	12.5	陸鳥類	H5N1	3.2
9 埼玉県川口市	12.20	陸鳥類	H5N1	3.2
10 埼玉県川口市	1.7	陸鳥類	H5N1	3.2
11 埼玉県川口市	1.10	陸鳥類	H5N1	3.2
12 埼玉県川口市	1.20	陸鳥類	H5N1	3.2
13 埼玉県川口市	1.23	陸鳥類	H5N1	3.2
14 埼玉県川口市	1.23	陸鳥類	H5N1	3.2
15 埼玉県川口市	1.23	陸鳥類	H5N1	3.2
16 埼玉県川口市	1.23	陸鳥類	H5N1	3.2
17 埼玉県川口市	1.26	陸鳥類	H5N1	3.2
18 埼玉県川口市	2.3	陸鳥類	H5N1	3.2
19 埼玉県川口市	2.8	陸鳥類	H5N1	3.2
20 埼玉県川口市	2.7	陸鳥類	H5N1	3.2
21 埼玉県川口市	2.8	陸鳥類	H5N1	3.2
22 埼玉県川口市	2.8	陸鳥類	H5N1	3.2
23 埼玉県川口市	2.8	陸鳥類	H5N1	3.2
24 埼玉県川口市	2.8	陸鳥類	H5N1	3.2
25 埼玉県川口市	2.8	陸鳥類	H5N1	3.2
26 埼玉県川口市	2.10	陸鳥類	H5N1	3.2
27 埼玉県川口市	2.11	陸鳥類	H5N1	3.2
28 埼玉県川口市	2.12	陸鳥類	H5N1	3.2
29 埼玉県川口市	2.14	陸鳥類	H5N1	3.2
30 埼玉県川口市	2.14	陸鳥類	H5N1	3.2
31 埼玉県川口市	2.15	陸鳥類	H5N1	3.2
32 埼玉県川口市	2.15	陸鳥類	H5N1	3.2
33 埼玉県川口市	2.18	陸鳥類	H5N1	3.2
34 埼玉県川口市	2.18	陸鳥類	H5N1	3.2
35 埼玉県川口市	2.18	陸鳥類	H5N1	3.2
36 埼玉県川口市	2.17	陸鳥類	H5N1	3.2
37 埼玉県川口市	2.17	陸鳥類	H5N1	3.2
38 埼玉県川口市	2.12	陸鳥類	H5N1	3.2
39 埼玉県川口市	2.21	陸鳥類	H5N1	3.2
40 埼玉県川口市	2.18	陸鳥類	H5N1	3.2
41 埼玉県川口市	2.21	陸鳥類	H5N1	3.2
42 埼玉県川口市	2.22	陸鳥類	H5N1	3.2
43 埼玉県川口市	2.22	陸鳥類	H5N1	3.2
44 埼玉県川口市	2.24	陸鳥類	H5N1	3.2
45 埼玉県川口市	2.24	陸鳥類	H5N1	3.2
46 埼玉県川口市	2.24	陸鳥類	H5N1	3.2
47 埼玉県川口市	2.24	陸鳥類	H5N1	3.2
48 埼玉県川口市	2.28	陸鳥類	H5N1	3.2
49 埼玉県川口市	3.1	陸鳥類	H5N1	3.2
50 埼玉県川口市	3.1	陸鳥類	H5N1	3.2
51 埼玉県川口市	3.3	陸鳥類	H5N1	3.2
52 埼玉県川口市	3.1	陸鳥類	H5N1	3.2
53 埼玉県川口市	3.4	陸鳥類	H5N1	3.2
54 埼玉県川口市	3.8	陸鳥類	H5N1	3.2

殺処分総数 約189万羽



カラス
猛禽類
※うちカラスが24例、
猛禽類14例

家きん
野鳥

感染したマガンを採食するハシブトガラス

※詳細は環境省 <https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird/>

昨シーズンの発生農場の概要 (疫学調査報告書、参考資料より)

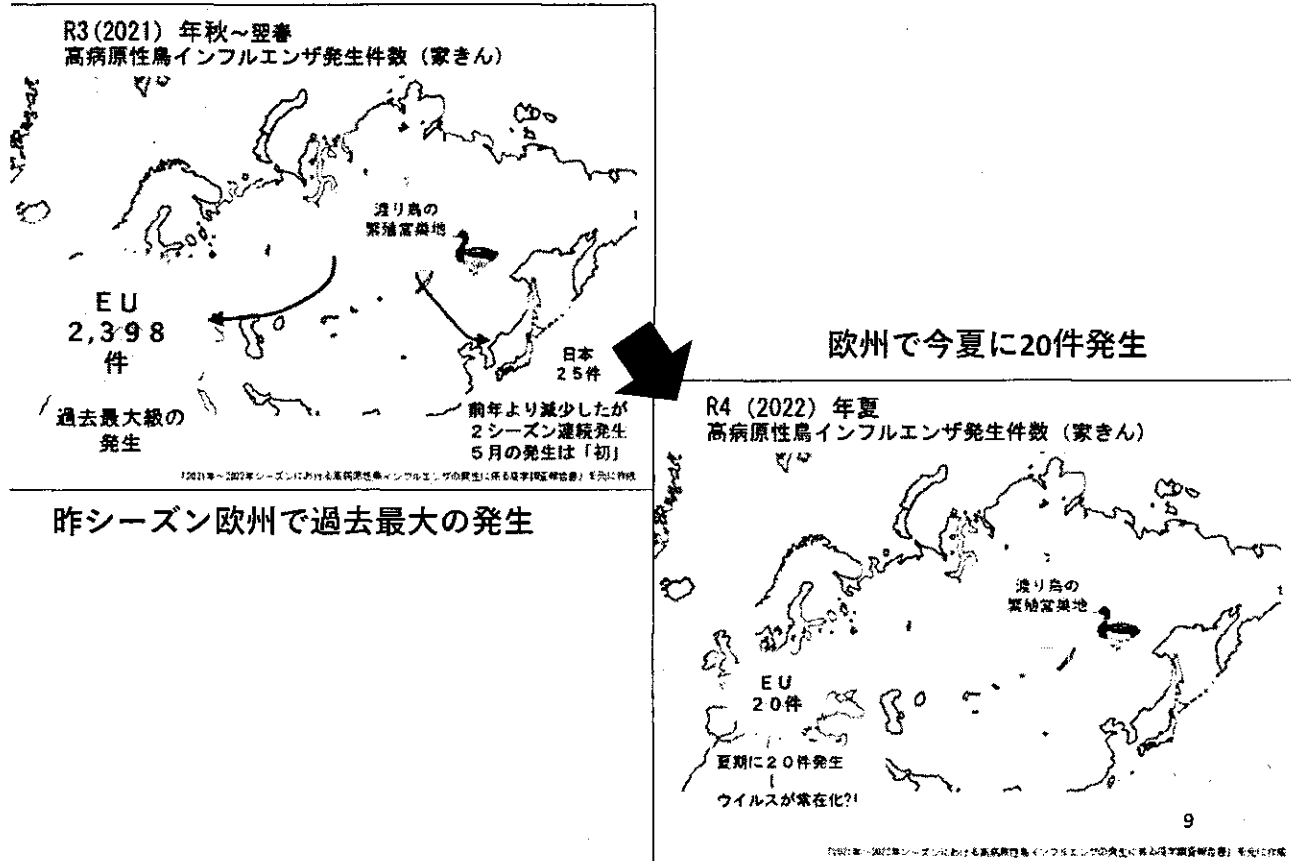
立地

- ため池・河川・水路等、カモ類等が利用する可能性がある水場に近い
- 海岸に近い

鶏舎への侵入経路

- 鶏舎に出入する際の長靴交換の不備
- 鶏舎の破損によるネコ、ネズミ等の野生動物の侵入の可能性
- 高病原性鳥インフルエンザに感染したカラスが持ち込んだ可能性

今(2022年~2023年)シーズンの展望 ②



今(2022年~2023年)シーズンの展望 ③

昨シーズン

国内に4種類のウイルスを確認

- 前シーズンに欧州やアジアで分離されたウイルス
- 昨シーズンに欧州で分離されたウイルスに遺伝的に近縁なウイルス

欧州で過去最大の発生



今シーズン (11月2日現在)、国内の家きん飼養農場で3件発生。

さらに

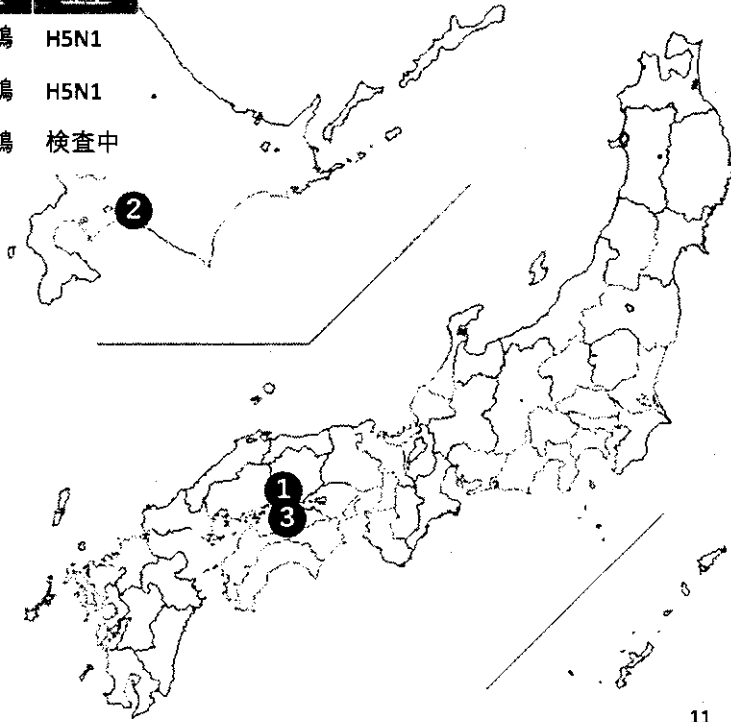
今後は毎シーズン

本病の発生リスクが高まる可能性

令和4年度 国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況

家きんにおける鳥インフルエンザ発生状況（11月2日現在）

	農場	発生日	用途	亜型
1	岡山県倉敷市	10月28日	採卵鶏	H5N1
2	北海道厚真町	10月28日	肉用鶏	H5N1
3	香川県観音寺市	11月1日	採卵鶏	検査中

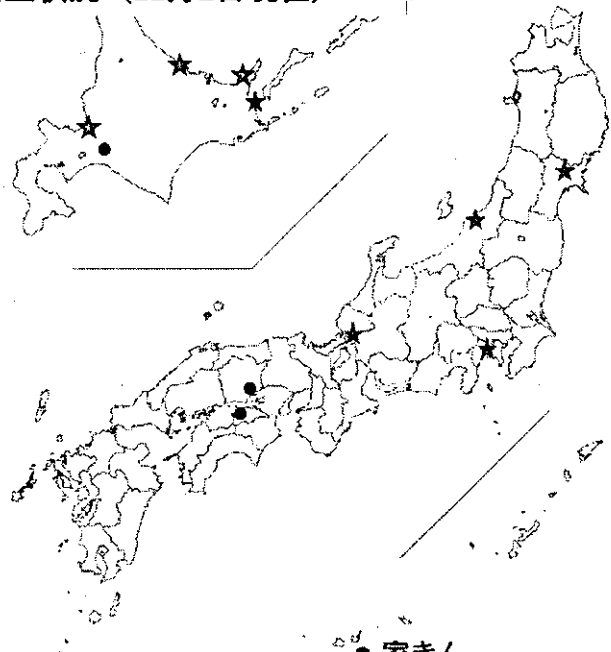


11

令和4年度 国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況

北海道内における野鳥の鳥インフルエンザ発生状況（11月2日現在）

回収日 採取日	場所		検体情報		簡易検査 羽数	遺伝子検査	病原性
	振興局	市町村	検体の種類	種名			
10/8	根室	別海町	糞便	ガンカモ類			高病原性
10/23	オホーツク	斜里町	衰弱野鳥	ハシブトガラス	1	陰性	検査中
10/23	オホーツク	紋別市	糞便	ガンカモ類			高病原性
10/28	石狩	札幌市	死亡野鳥	ハシブトガラス	1		高病原性



● 家きん
★ 野鳥（検査中含む）

※ HPAI: 高病原性鳥インフルエンザ
LPAI: 低病原性鳥インフルエンザ

12

昨シーズンの発生農場の概要（疫学調査報告書、参考資料より）

立地

- ため池・河川・水路等、カモ類等が利用する可能性がある水場に近い
- 海岸に近い

鶏舎への侵入経路

- 鶏舎に出入する際の長靴交換の不備
- 鶏舎の破損によるネコ、ネズミ等の野生動物の侵入の可能性
- 高病原性鳥インフルエンザに感染したカラスが持ち込んだ可能性

13

出典：越境性動物疾病防疫対策強化推進会議

発生を防ぐために

① 野鳥の飛来防止

- 水場が農場周囲にある場合、忌避テープやテグス、ネット等を設置、ネット穴の修繕

② 野生動物の侵入防止

- 家きんの死体を蓋付きの箱や防鳥ネット等で適切に保管
- 家きん舎へのネズミ・野鳥等の侵入防止のための修繕

③ ウイルスの侵入防止

- 家きん舎専用長靴への履き替え、手指消毒・手袋交換

④ だちょう、エミューは野鳥と接触しない飼養管理

都度、情報提供及び立入検査を実施し、指導。

高病原性鳥インフルエンザ発生！

10月16日、21日に韓国の家きん飼養農場においてH5N1亜型による発生が3戸ありました。
今シーズン国内では、すでに複数の野鳥感染事例で、警戒を促してきたところですが、国内企業にウイルスが蔓延している懸念で、ウイルス侵入防止のため、次の対策の徹底を！

- ① 野鳥の飛来防止
● 水場が農場周囲にある場合、忌避テープやテグス、ネット等を設置、ネット穴の修繕
- ② 野生動物の侵入防止
● 家きんの死体や生肉を適切に保管し、蓋付きの箱や防鳥ネット等で適切に保管
- 家きん舎へのネズミ・野鳥等の侵入防止のための修繕
- ③ ウイルスの侵入防止
● 家きん舎専用長靴への履き替え、手指消毒・手袋交換
- ④ だちょう、エミューは野鳥と接触しない飼養管理

異常家きんの早期発見・早期通報！！

北海道家きん衛生研究所
TEL: 0120-22-4212 @www.sppca.jp/infocenter/0120-22-4212

2 豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫の発生状況

15

国内における豚熱の発生状況及びワクチンの接種状況

飼養豚陽性発生県：■ (ただし、斜線は、令和3年度以降発生なし。)

【17県】(飼養頭数 2,660,550頭(全//9.7%))

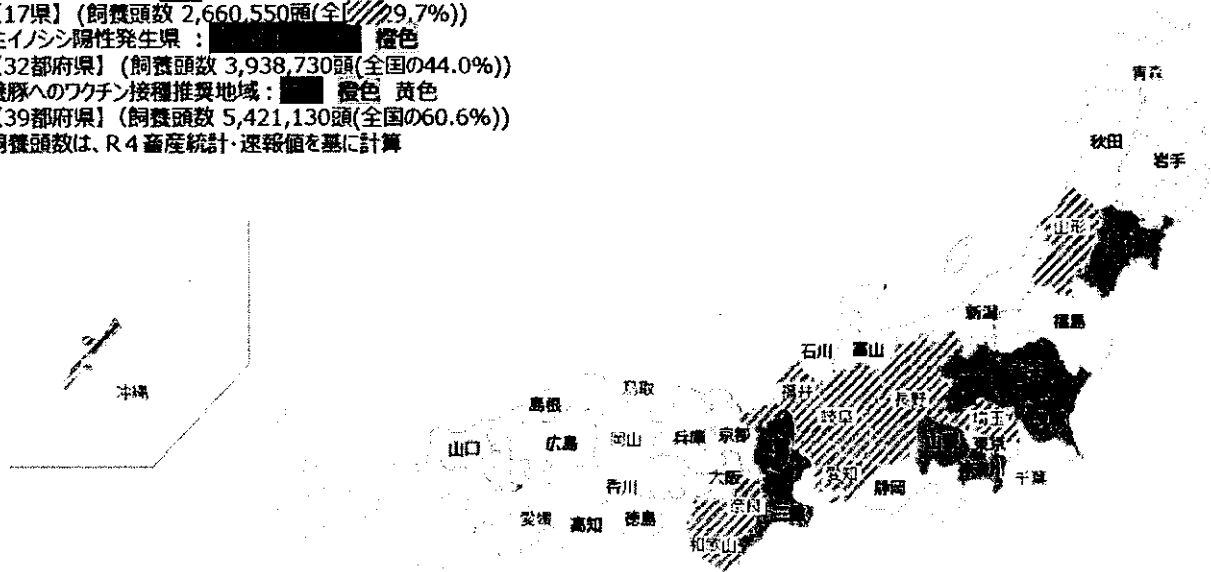
野生イノシシ陽性発生県：■ 橙色

【32都府県】(飼養頭数 3,938,730頭(全国の44.0%))

飼養豚へのワクチン接種推奨地域：■ 橙色 黄色

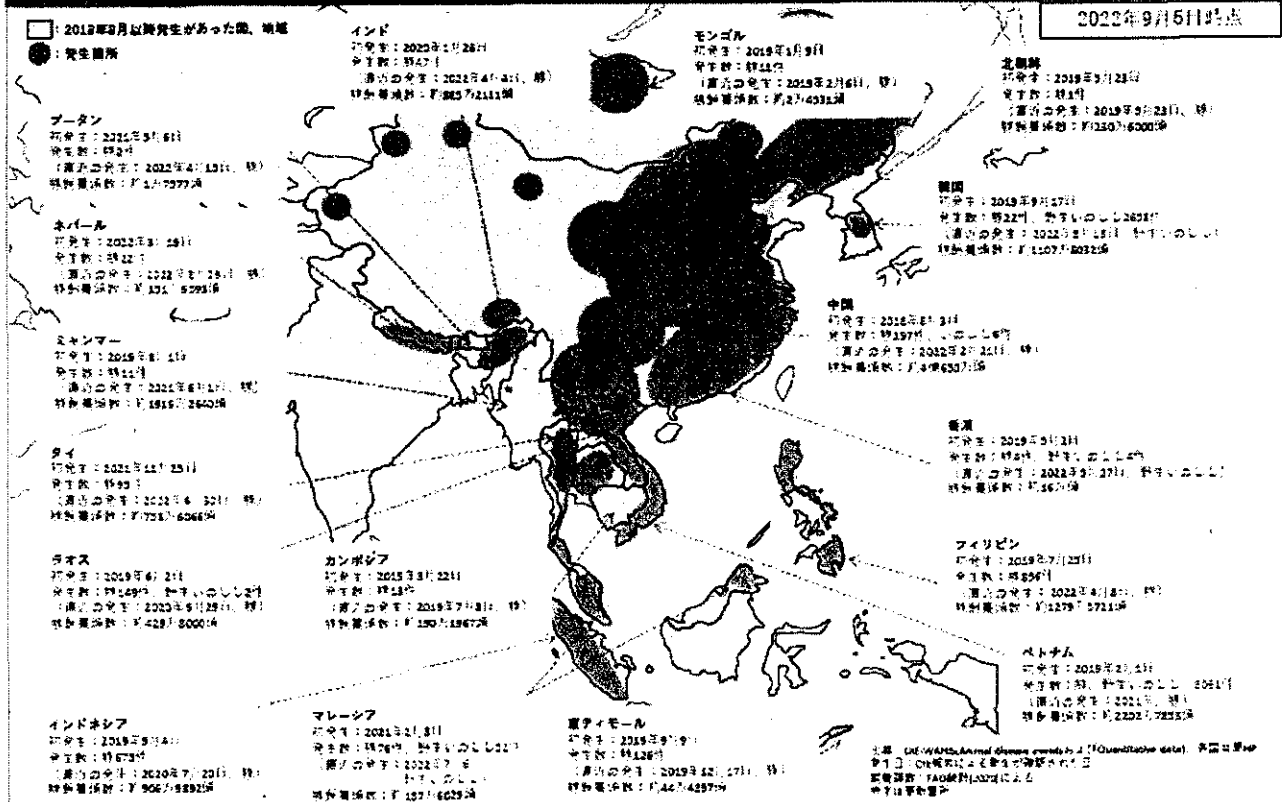
【39都府県】(飼養頭数 5,421,130頭(全国の60.6%))

※飼養頭数は、R4畜産統計・速報値を基に計算



16

アジアにおけるアフリカ豚熱の発生状況



アジアにおける口蹄疫の発生状況 (2019年以降)

